

# 第3回 HPV検査専門部会

2026年1月29日



## 1. 第1・2回HPV検査専門部会振り返り

## 2. 子宮頸がん対策について

神戸市の子宮頸がん検診の状況

導入時における市民への啓蒙

- ・ 検診受診率向上のための対策
- ・ HPV検査対象者への周知・啓発

## 3. 意見交換



## 第1・2回HPV検査専門部会

### 振り返り



#### 【HPV検査単独法を導入する上での検討項目】

第2回HPV専門部会  
資料より

1. 検診間隔と対象年齢
2. 長期追跡のためのデータベースとフォロー体制の構築
3. 転入者への対応
4. 精度管理体制の構築（転出者への結果通知など）
5. 検診受診率向上のための対策
6. HPV検査対象者への周知・啓発

第1回議論をもとに、上記5つを検討項目と設定

「1～4」については第2回専門部会、「5・6」について第3回専門部会で検討

## 【HPV検査単独法を導入する上での検討項目】

## 第2回会議での主な意見

## 1. 検診間隔と対象年齢

対象年齢	検診間隔	検査方法
20～29歳（偶数の方）	2年に1回	細胞診
30～60歳の節目の方	5年に1回	HPV検査
30～49歳までで上記以外の方（※）	5年に1回	HPV検査
61歳以上の方	5年に1回	HPV検査

※罹患率の高い年齢で節目年齢に受診ができなかった方に受診の機会提供

2020年 神戸市子宮頸がん年齢調整罹患率（人口10万対 上皮内がんを含む）



30～49歳の年代において罹患率が高いことから節目のタイミングで受診ができなかった方に受診機会を提供

- ・ HPV導入初年度となる30歳には無料クーポンの提供が望ましい
- ・ 61歳以上は国内でエビデンスのある細胞診を実施するべきである
- ・ 31～49歳の好発年齢への受診機会提供は問題ない。

## 【HPV検査単独法を導入する上での検討項目】

## 第2回会議での主な意見

## 2. 長期追跡のためのデータベースとフォロー体制の構築

- ・ 先行自治体を参考にシステム構築を検討し、構築期間短縮や予算削減を行うべき  
→本市の検診データベース保守業者に構築スケジュールなどヒアリング実施した結果、構築完了および運用開始は、R10年度初期と回答を受けた。
- ・ HPVワクチン接種状況と検診結果のリンク  
→国の標準化仕様公表後連携について検討を進める。

- ・ システム導入（R10）に3年かかるのであれば、その間に受診率向上させることに重点を置いた方がよい。

## 3. 転入者への対応

- ・ 他自治体からの転入者の検診結果を自治体間で連携できるかが課題。  
→転入者は節目年齢にかかわらず、HPV検査を実施する。  
また、転入の手続き時にHPV検査の情報を発信しできるよう調整を行う。

- ・ HPV検査の受診歴や対象の有無は個人情報に当たるため、対象者にとって申請しやすい方法を工夫する必要がある。

## 4. 精度管理体制の構築（転出者への結果通知など）

- ・ 受診者への公式な検査結果の通知とフォロー勧奨  
→受診票に「受診者控え」を追加し、結果及び次回の受診時期を明記。  
→1年後の追跡検査未受診者へ勧奨を行い、受診を促す。

- ・ 精度管理委員会の立ち上げ、擬陽性のチェックなどができる体制が必要。
- ・ 県のがん登録データと、市の検診結果の突合せを行うことを進めてほしい。

振り返りに対する

# 質問



本日の検討事項

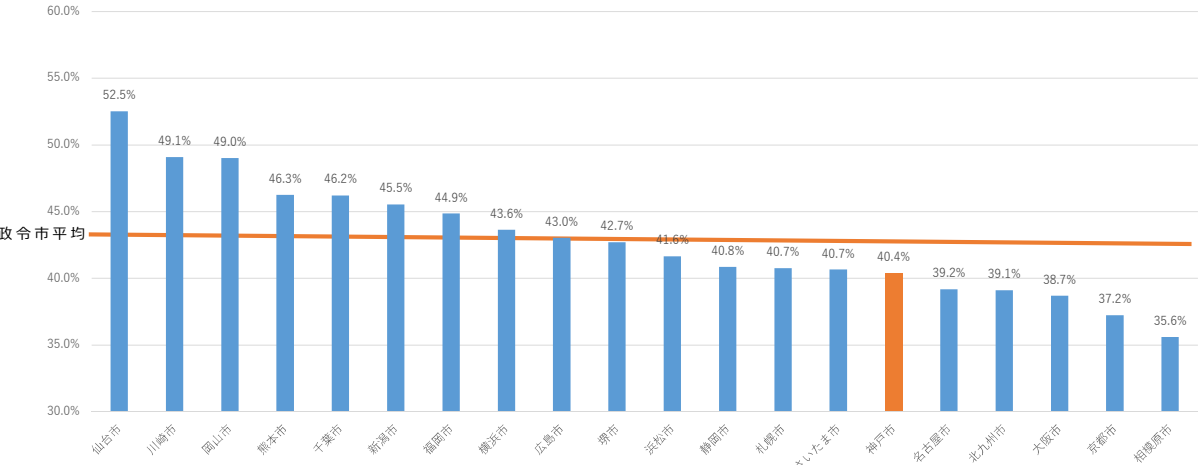
## 本市の子宮頸がん対策の状況



神戸市の子宮頸がん対策 (政令市における子宮頸がん受診率)

国の「がん対策推進基本計画」において検診受診率60%の目標が掲げられたが、現時点ではどの政令市も達成できていない

■ 令和4年度国民生活基礎調査受診率 全国43.6% 政令市42.8% 兵庫県38.9%



9

神戸市の子宮頸がん対策 (検診制度の概要)

■ 制度の現状

対象者	神戸市に住民票のある、 年度内に20歳以上の偶数歳を迎える女性
検査内容	視診・内診・細胞診
検査実施場所	市内の指定医療機関（86医療機関 ※2024年7月時点）
自己負担金	1,700円（8,400円 ※診療報酬に基づき算出）
市民への個別案内	・21歳、40歳を迎える年度に無料クーポンを配布 ・30歳、50歳、60歳を迎える年度に受診勧奨ハガキを送付



10

## 2025年度（令和7年度）の子宮頸がん検診対策 対象者

子宮頸がん検診(細胞診)

- 子宮頸がん検診対象年齢
- 無料クーポンの配布
- 受診勧奨ハガキの送付

年齢	出生年度
20歳	2005年度
21歳	2004年度
22歳	2003年度
23歳	2002年度
24歳	2001年度
25歳	2000年度
26歳	1999年度
27歳	1998年度
28歳	1997年度
29歳	1996年度

年齢	出生年度
30歳	1995年度
31歳	1994年度
32歳	1993年度
33歳	1992年度
34歳	1991年度
35歳	1990年度
36歳	1989年度
37歳	1988年度
38歳	1987年度
39歳	1986年度

年齢	出生年度
40歳	1985年度
41歳	1984年度
42歳	1983年度
43歳	1982年度
44歳	1981年度
45歳	1980年度
46歳	1979年度
47歳	1978年度
48歳	1977年度
49歳	1976年度

年齢	出生年度
50歳	1975年度
51歳	1974年度
52歳	1973年度
53歳	1972年度
54歳	1971年度
55歳	1970年度
56歳	1969年度
57歳	1968年度
58歳	1967年度
59歳	1966年度

年齢	出生年度
60歳	1965年度
61歳	1964年度
62歳	1963年度
63歳	1962年度
64歳	1961年度
65歳	1960年度
66歳	1959年度
67歳	1958年度
68歳	1957年度
69歳	1956年度

70歳以上も、当年度偶数年齢になる方が細胞診の受診可能

## HPVワクチン接種率向上への取り組み

### ●2025年度実施したこと

- 7月：高校1年生相当の未接種者へ、勧奨ハガキを送付
- 9月：DTの未接種者への案内勧奨ハガキにHPVの案内を追記
- 3月末：定期接種対象者（次年度小学6年生）へ接種券とリーフレット送付

### ●今後、順次取り組む予定のもの

- こども家庭局が運営する「こどもっとKOBE」にHPVワクチンを含む学童期の予防接種の記事を掲載
- 推奨年齢である中学1年生に、個別勧奨としてハガキを送付し、15歳未満で9価ワクチンの接種を開始すれば、2回の接種で完了できることもお知らせする



**ジフテリア・破傷風混合ワクチン (DTワクチン)の接種を受けましょう**

ジフテリアにかかるリスクを95%程度減らすことができ、破傷風は100%近い方が十分な抗体を獲得すると報告されています

**ジフテリアってどんな病気？**

- ジフテリアはジフテリア菌による感染症で、主に気道の分泌物によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓や神経に影響を与え、麻痺や心不全を引き起こすことがあります。
- 致死率は一般に約10%、特に5歳以下や40歳以上では最大で20%に達することがあります。

**破傷風ってどんな病気？**

- 破傷風は、傷口から破傷風菌が入り感染する重篤な病気です。毒素が神経に作用します。初期症状は口が閉じにくい、顎の硬くなるなど、進行すると歩行や排尿・排便障害、全身の筋肉の硬直、呼吸困難などを引き起こし、死に至ることがあります。

※ジフテリア・破傷風と類症病下効接種は、乳幼児期の三種混合または、四種混合の予防接種でつけた基礎免疫に対する追加接種です。接種することにより確実な免疫をつけることができます。

**HPVワクチンの定期接種をまだ受けていない女の子へ**

DTワクチンに加えて、HPVワクチンも大切な予防接種の2つです

小学6年～高校1年相当の女の子は、HPVワクチンの予防接種を無料で受けることができます。予防接種で子宮頸がんを予防しましょう。

ワクチン  
HPVワクチン

詳細はこちら(88頁)





## 本日の検討事項

### HPV検査対象者への周知・啓発

- 1.子宮頸がん検診の方法がかわることへの啓発
- 2.HPV検査対象者に対しての啓発（個別勧奨含む）

### 検診受診率向上のための対策

- 3.HPV検査開始までの間に行う受診率向上策
  - ・ HPV検査開始までの間（2026年度～2027年度の間）に  
広く市民へ向けてどのような広報を行うか
  - ・ 特に受診率の低い若年世代（20～30代）に向けた広報



## HPV検査対象者への周知・啓発

### 1.子宮頸がん検診の方法がかわることへの啓発

広報時期	これまでの会議で提案のあったご意見
導入前	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広く市民への情報提供               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子宮頸がん検診の方法が変わること</li> <li>・ HPVウイルスとは</li> <li>・ 対象者 など</li> </ul> </li> <li>○医療機関での個別情報提供               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子宮頸がん検診（細胞診）を受けられた方に、次年度以降の検診方法が変わることを伝えるチラシを配布</li> </ul> </li> <li>○協会けんぽをはじめとした企業への情報提供</li> </ul>
導入時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の受診勧奨               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受診対象者（節目年齢の人）へのクーポンや受診券送付</li> </ul> </li> <li>○広く市民への情報提供               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移行期間のみ対象（節目以外の31～49歳）となる人の受診勧奨</li> </ul> </li> <li>○転入者への広報               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区役所市民課にて転入者への通知、チラシを配布</li> <li>→受診対象者から受診券発行依頼を促す</li> </ul> </li> </ul>
導入以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の受診勧奨               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受診対象者（節目年齢の人）へのクーポンや受診券送付</li> <li>・ 要フォロー対象者への受診勧奨</li> </ul> </li> <li>○広く市民への情報提供</li> <li>○協会けんぽをはじめとした企業への情報提供</li> </ul>



## HPV検査対象者への周知・啓発

### 2028年度（令和10年度）のHPV検査対象者

年齢	出生年度	検診対象	初回ワクチン 接種率(厚労省)
30歳	1998年度	○	88.3
31歳	1997年度	△	87.6
32歳	1996年度	△	78.3
33歳	1995年度	△	74.4
34歳	1994年度	△	53.3
35歳	1993年度	○	-
36歳	1992年度	△	-
37歳	1991年度	△	-
38歳	1990年度	△	-
39歳	1989年度	△	-
40歳	1988年度	○	-
41歳	1987年度	△	-
42歳	1986年度	△	-
43歳	1985年度	△	-
44歳	1984年度	△	-
45歳	1983年度	○	-
46歳	1982年度	△	-
47歳	1981年度	△	-
48歳	1980年度	△	-
49歳	1979年度	△	-

年齢	出生年度	検診対象	初回ワクチン 接種率(厚労省)
50歳	1978年度	○	-
51歳	1977年度	×	-
52歳	1976年度	×	-
53歳	1975年度	×	-
54歳	1974年度	×	-
55歳	1973年度	○	-
56歳	1972年度	×	-
57歳	1971年度	×	-
58歳	1970年度	×	-
59歳	1969年度	×	-
60歳	1968年度	○	-
61歳	1967年度	×	-
62歳	1966年度	×	-

無料クーポンの配布  
 受診勧奨ハガキの送付  
 新たに個別勧奨を行う対象

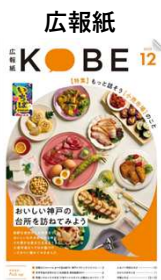
○ 検査対象者  
 △ 移行期間のみ検査対象  
 × 検査対象外

※30歳に対しては、前回の検討結果から、無料クーポンの配布を検討する想定

17

## HPV検査対象者への周知・啓発

### 神戸市が活用できる媒体の紹介



神戸市HP



イベントポータルサイト  
おでかけKOBE



制度検索サイト  
スマートこうべ



神戸市公式SNS

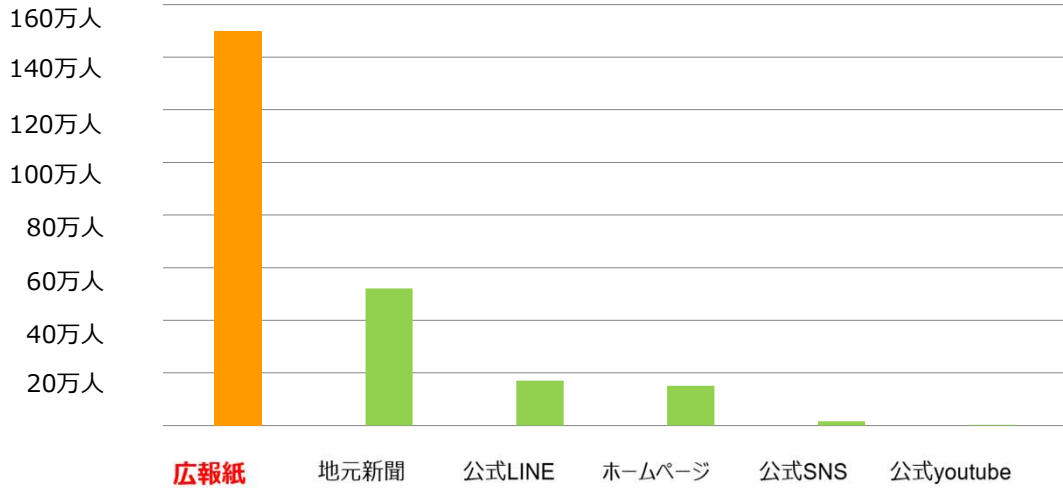
チラシ・ポスター



18

## HPV検査対象者への周知・啓発

### 【各媒体における到達人数】



## HPV検査対象者への周知・啓発

### 2. HPV検査対象者に対しての情報提供

#### 【個別の受診勧奨ハガキ】

- ① 受診券
- ② 検診の受け方（動作指示）
- ③ QA形式でHPV検査の良くある質問を掲載
  - ・子宮頸がんの要因
  - ・HPVとは
  - ・ワクチンと検診の両立の重要性
  - ・子宮頸がんの罹患率や死亡率
- ④ HPV検査の説明
  - ・検査方法
  - ・HPV検査のメリット

#### 令和8年度 21歳子宮頸がん検診無料クーポン

**子宮頸がん検診の受け方**

【検診券の受け取り】  
 ① 検診券を受け取る  
 ② 検診券を提示する  
 ③ 検診を受ける  
 ④ 検診の結果を確認する

**2026年度 子宮頸がん検診 無料クーポン**

有効期間：2026年4月30日～2027年3月31日

氏名：〇〇〇〇〇〇〇  
 生年月日：〇〇〇〇年〇〇月〇〇日  
 住所：〒〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇

〒760-0822 香川県高松市丸之内1-1-1 香川県がんセンター



## HPV検査対象者への周知・啓発

- 1.子宮頸がん検診の方法がかわることへの啓発について
- 2.HPV検査対象者に対しての情報提供について

# 意見交換

23

## 検診受診率向上のための対策

### 3.HPV検査開始までの間に行う受診率向上策

～広く市民へ向けてどのような広報を行うか～

#### ○掲示物

- ・市内婦人科医療機関や乳幼児健診会場へのポスター掲示
- ・乳幼児健診でのチラシ配布（母親向け）
- ・大学、専門学校向けのポスター掲示
- ・がん検診受診促進協定企業からの啓発

#### ○個別の啓発案

- ・受診率が低い国保加入者の30代を対象とした啓発
- ・乳がんの罹患年齢が上昇する年代への啓発と合わせて44歳になる方への啓発
- ・乳がん検診は受けているが、子宮頸がん検診は未受診という方への啓発

その他、効果的な啓発対象があれば助言をいただきたい。

24

## 検診受診率向上のための対策

### 3.HPV検査開始までの間に行う受診率向上策

～特に若年世代（20～30代）に向けてどのような広報を行うか①～

地元の大学生と意見交換を行った結果、特に20代女性は、婦人科を受診することのハードルが高いためハードルを下げるためのアイデアを募った。

<スマートこうべの活用>

受診を判断する際の情報収集を容易に

- ・地図アプリで位置情報から医療機関を把握
- ・予約の際はそのまま電話番号をタップできる

今後の改善案

- ・医療機関名をタップすることでHPを表示
- ・WEB予約可能な医療機関の提示
- ・土日や平日の夜の受診可否を検索



## 検診受診率向上のための対策

### 3.HPV検査開始までの間に行う受診率向上策

～特に若年世代（20～30代）に向けてどのような広報を行うか②～

若い女性、特に20代は婦人科受診への心理的ハードルが高く、子宮頸がん検診に対する不安も大きい。加えて、待合での待機により自身の状況について周囲から誤った受け止めをされることへの懸念も、受診を妨げる一因となっている。

<指定医療機関の入り口や待合に検診実施の表示>

検診受診のための来院であることが周囲に理解されるよう配慮

今後の改善案：数年前に作成した掲示用プレートのリニューアル



素材：プレート  
サイズ縦20cm×横6cm



素材：シール  
サイズ縦12cm×横8cm



検診受診率向上のための対策

3. HPV検査開始までの間に行う受診率向上策について

意見交換



今後のスケジュール

第1回 2025年2月6日	課題の洗い出し
第2回 2025年6月19日	第1回の振り返り 導入に向けての検討 1.検診間隔と対象年齢 2.データベースとフォロー体制の構築 3.転入者への対応 4.精度管理体制の構築 未受診者対策自己採取HPV検査について
がん対策推進懇話会 2025年8月4日	専門部会の検討状況報告 意見徴収
第3回 2026年1月29日	第1・2回の振り返り 5.検診受診率向上のための対策 6.HPV検査対象者への周知啓発
第4回 2026年 春	専門部会およびがん懇話会の振り返り 専門部会としての方向性のまとめ
がん対策推進懇話会 2026年 夏	専門部会の報告 意見徴収

専門部会及びがん対策推進懇話会の意見を踏まえ、HPV検査導入の方針を本市として決定